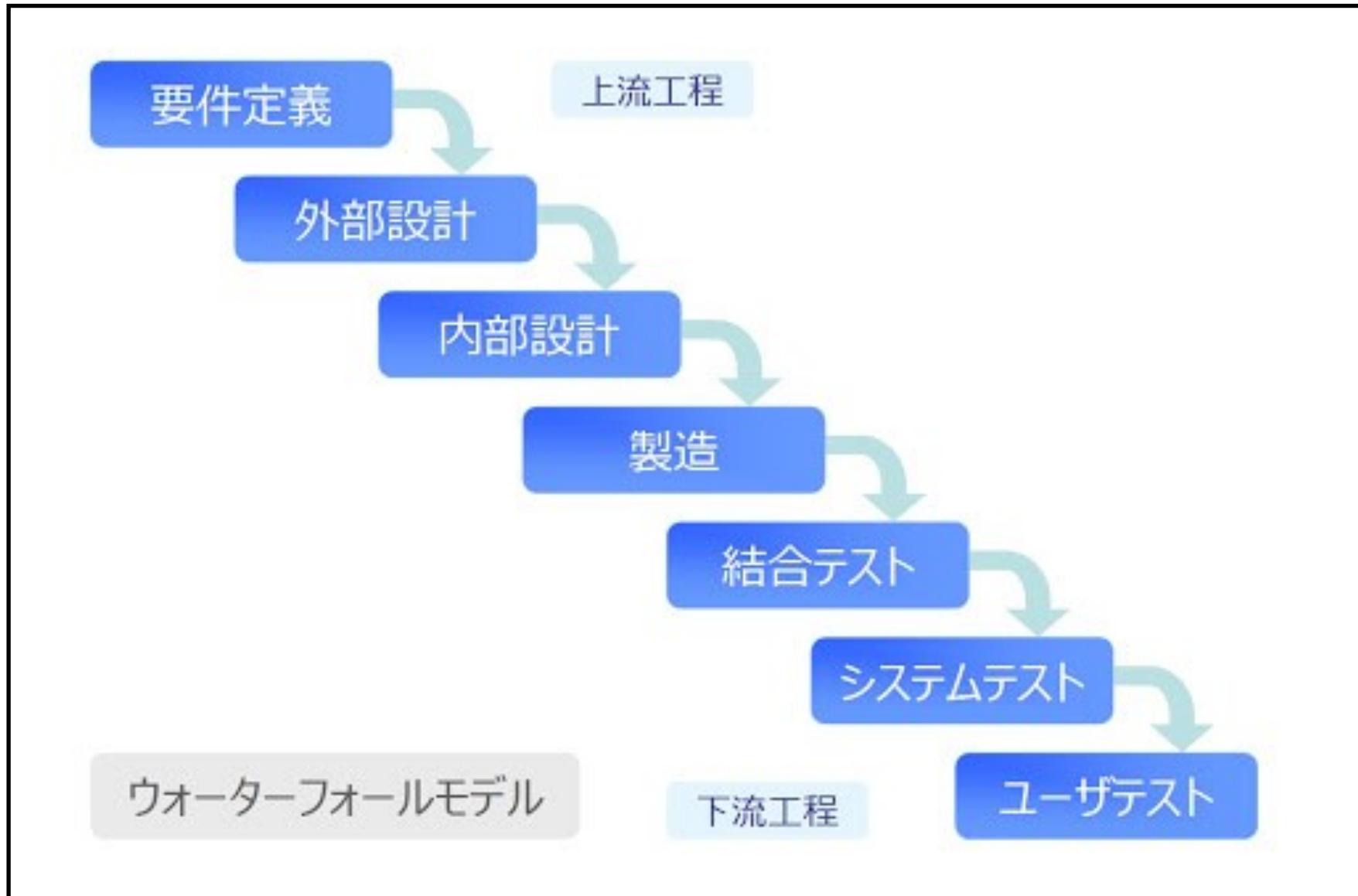


# 画面設計書について

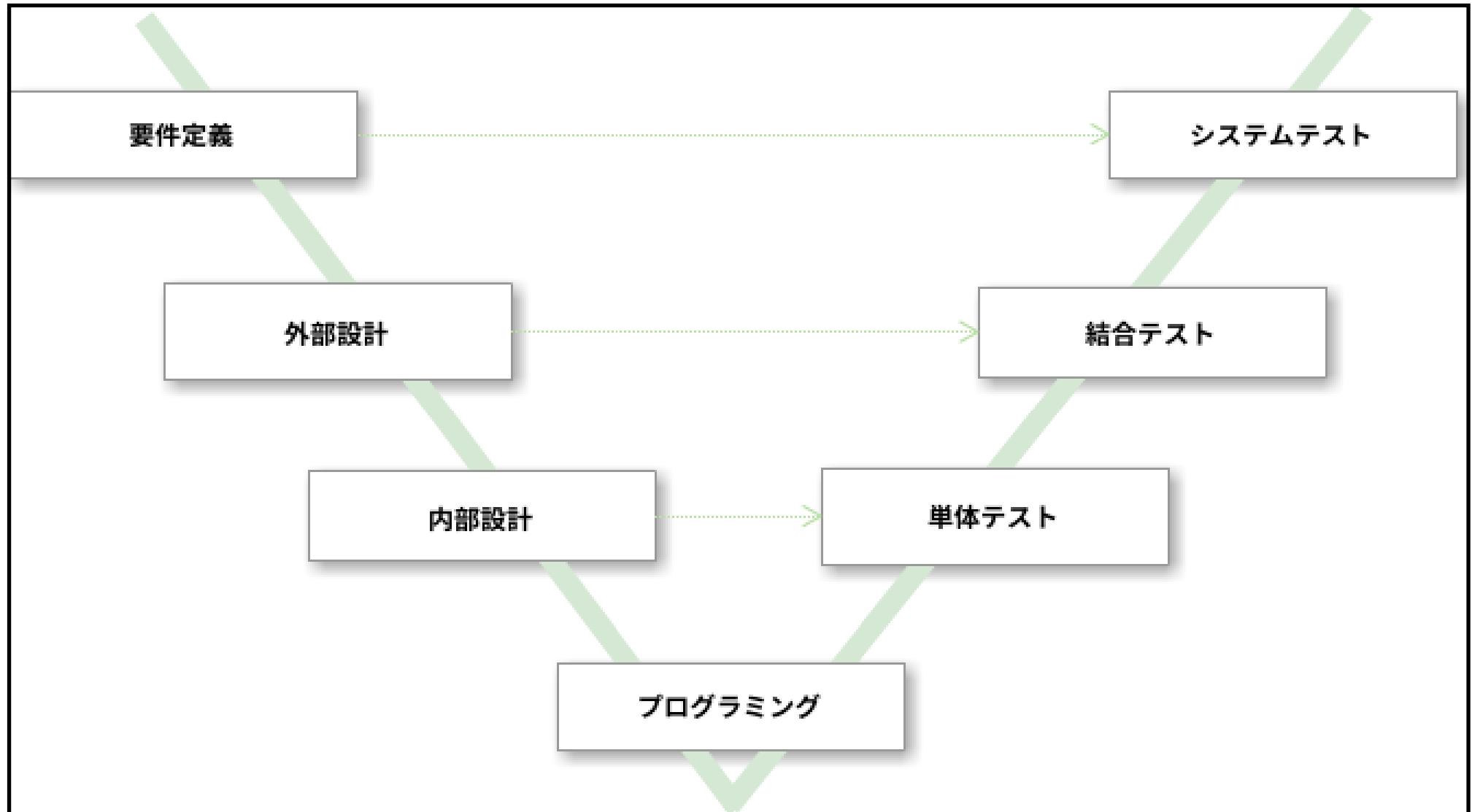
# 開発工程



# 開発工程(詳細)



# 開発工程(V字モデル)



# 必要な成果物一覧(上流工程)

工程	要件定義	外部設計	内部設計
成果物			
・要件定義書		・ハードウェア構成図	・コーディング規約
システム化背景,現状のフロー		・ソフトウェア構成図	・アクティビティ図
システム導入の目標		・ネットワーク構成図	・シーケンス図
システム概要		・アプリケーション構成図	・クラス図
システムの具体的な機能		・画面設計書	・外部システムインターフェース
既存システムとの比較		画面一覧	・SQLクエリー一覧
導入後のフロー		画面遷移図	・イベント処理詳細
システム要求		画面レイアウト	
セキュリティ要求		画面入出力項目一覧	
		画面アクション定義	
		・帳票設計書	
		・バッチ設計書	
		・テーブル、ファイル設計書(ER図)	
		・外部インターフェース設計書	

# 画面設計書

## 重要な項目

- ・画面遷移図

→画面遷移パターンを表す図。この画面が必要、不必要などを顧客とすり合わせるのに使用する。

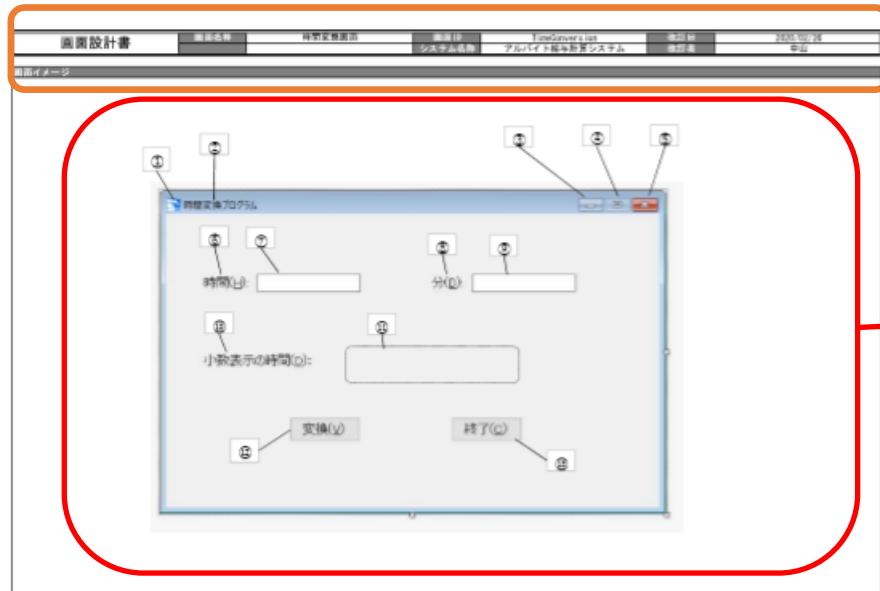
- ・画面レイアウト(モック画面)

→各画面の完成予想図。顧客とレイアウトをすり合わせるのに使用する。

- ・画面項目一覧

→画面レイアウト上の部品について一覧にしたもの。单画面については、レイアウトと項目一覧をもって画面設計書とする。

# 画面設計書イメージ



画面基本データ

画面のID,名前,設計書の更新日など

画面イメージ

画面イメージを張り付けておく。画面の項目に番号を振っておく。

項目名	項目名	分類	コントロール	属性プロパティ	Eventプロパティ	備考
フォーム	フォーム	Form	Form	BackColor:TimeConverter	Loadイベント:TimeConverter_Load	Formプロパティ:TimeConverter
ピクチャ	ピクチャ			Picture:TimeConverter		Pictureプロパティ:TimeConverter
項目名	タイトル			Text:時刻変換プログラム		Textプロパティ:TimeConverter
表示用ラベル	表示用ラベル		Label	Text:時間(h):		Labelプロパティ:TimeConverter_h
表示用ラベル	表示用ラベル		Label	Text:分(m):		Labelプロパティ:TimeConverter_m
表示用ラベル	表示用ラベル		Label	Text:秒(s):		Labelプロパティ:TimeConverter_s
開じるボタン	開じるボタン		Button	Text:変換(v)	Clickイベント:TimeConverter_Click	ボタンプロパティ:TimeConverter
時間表示ラベル	時間表示ラベル		Label	Text:終了(e):		Labelプロパティ:TimeConverter_exit
時間入力ボックス	時間入力ボックス		TextBox	MaxLength:2		TextBoxプロパティ:TimeConverter_h
分入力ボックス	分入力ボックス		TextBox	MaxLength:2		TextBoxプロパティ:TimeConverter_m
秒入力ボックス	秒入力ボックス		TextBox	MaxLength:2		TextBoxプロパティ:TimeConverter_s
変換結果表示ラベル	変換結果表示ラベル		Label	Text:小数表示の時間(d):		Labelプロパティ:TimeConverter_d
変換ボタン	変換ボタン		Button	Text:変換(v):	Clickイベント:TimeConverter_Click	ボタンプロパティ:TimeConverter
終了ボタン	終了ボタン		Button	Text:終了(e):	Clickイベント:TimeConverter_Click	ボタンプロパティ:TimeConverter
フォームのその他プロパティ						
FormBorderStyle	FixedSingle					
AcceptButton	None					
CancelButton	None					
Form						

画面項目一覧

画面イメージで振っておいた項目の番号通りに一覧表にしておく。項目のタイプ、ID、名前、入力制約、イベント処理名などを書いておく。

# 画面設計書の書き方(中山の場合)

## ①画面遷移図、画面一覧を作る

ユースケース図や業務フローなどから、画面遷移図を作成する。

画面遷移図から、画面の一覧表を作成する。

## ②各画面のイメージを作る

①で作成した画面一覧から、実際にシステムしたときのイメージ(モック画面)を作成する。(出来るだけ完成形に近いもののほうが良い。現場ではhtmlで見た目だけは完成させていました。)②までで一回顧客に確認を取る。

## ③各画面の設計書(画面イメージ、画面項目一覧)を書く

②で確認をした結果を遷移図、一覧、イメージに反映する。①で作成した画面一覧から、各画面ごとのイメージ、画面項目一覧を作っていく。PJの規模によるが、基本は共通部分の設計書と各画面の設計書に分けて書く。

## ④設計書の確認と修正を行う

(ここまでが外部設計)

# 画面設計書の書き方2(中山の場合)

## ⑤イベント処理詳細を書く

(ここから内部設計)

イベント処理の詳細設計図(シーケンス図やプログラム詳細)を書く。※内部設計は顧客に確認してもらう必要なし。